

令和5年度なでしこ保育園自己評価

【共通項目】対象者44名（携わっていない項目は未回答あり）

評価項目の数字は人数

評価基準

A かなりできている

B ほぼできている

C あまりできていない

D ほとんどできていない

項目	番号	内 容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
社会性・一般常識	2-1	社会福祉法人で働く一員としての自覚を持ち行動している。	19	25	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な言葉づかいができるよう意識していきたい。 対応する機会があまりなかったが、機会がある際は積極的の行いたい。(2-3) 登園が玄関受入になり、おがスマの動作不良など、スムーズに対応するため、もっと知識を身につける。
	2-2	相手に対して目をきちんと合わせ、挨拶や会釈等がきちんとできる。	19	25	0	0	
	2-3	電話が鳴ったら速やかにできるようにしている。用件をメモし、間違えないよう確認や伝達を行っている。	14	26	2	2	
	2-4	周囲の人や来客に清潔感を与える応対や身だしなみを実践している。	13	31	0	0	
	2-5	睡眠や食事を十分にとり、仕事に支障をきたさないよう、規則正しい生活を送っている。	15	29	0	0	
	2-6	体調不良時は速やかに上司に連絡をし、受診や療養をしている。	19	25	0	0	
	2-7	職員としてふさわしい言動をし、さまざまなハラスメントや虐待など職員としてあるまじき行為をしていない。	22	22	0	0	
職員間	2-8	職員間で確認・連絡・報告を行っている。	15	19	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 速やかに確認連絡報告が出来る環境整備や信頼関係が必要。定期的に初心にかえるよう意識する。 後輩育成の意識が足りていなかった。日々のコミュニケーションから、信頼関係を築き、互いに指導、相談等ができるようにしていきたい。 クラス間では確認、連絡、報告を行い、日々コミュニケーションを図っている。他の職員ともコミュニケーションを取り理解を深めていきたい。 会議の開始時間を守り、時間の効率化に努める。 わからない事や判断に迷う時はそのままにせず、すぐに確認をするようにしている。 職員会議等で共有したい内容は、伝えるべき事項を的確にまとめ、報告するようにする。 ミスをする度に助けて頂き感謝している。今後、少しでもミスを減らすようあわてず焦らず処理できればと思っている。
	2-9	上司や同僚とコミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。また、後輩が安心して相談できるよう心掛けている。	12	32	0	0	
	2-10	先入観・偏見・固定観念を持たずに相手の話を聞いている。	18	29	0	0	
	2-11	分からないことがあった場合や、判断に迷うことがあったら、確認をしている。また、困った時は互いに援助することができる。	21	23	0	0	
	2-12	職務分掌に基づき、担当業務を遂行している。	19	25	0	0	
	2-13	「前例」や「慣例」にとらわれずに、現状に応じて柔軟に業務を改善している。	9	34	1	0	
	2-14	職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言をし、施設の運営に関わっている。	10	34	0	0	
	2-15	各種会議、打ち合わせを適切かつ効率的に行っている。	15	26	2	1	
2-16	昨年度の自己評価の結果をふまえ、今年度に取り組む重点事項について確認し、取り組んできた。	10	31	2	0		

【教育・保育】対象者30名

項目	番号	内 容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
教育・保育目標	3-1	入園している子どもの最善の利益を考慮して保育にあたっている。	11	19	0	0	
	3-2	建学の精神、教育・保育目標を理解している。	8	22	0	0	
	3-3	認定こども園教育・保育要領及び園の教育・保育目標に基づき、園の全体的な計画を作成している。	9	21	0	0	
教育・保育について	3-4	子どもの自発性や発想を大切に、子どもが主体的に活動できるよう適切な援助や環境構成を心がけている。	11	18	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びを盛り上げようとい口だしすぎてしまい、子どもの主体的な活動の妨げになってしまっていたと反省した。自分なりに意識して子どもの遊びを見守るようにした。あくまでも保育者が主体リードするのではなく、子どもが主体であることを忘れず保育していきたい。 ・創意工夫は今後も続けよりよい方へと進めていければと思う(3-4)。 ・環境構成の難しさを感じる事が多く人的環境の位置についても、自分自身を含め適切な構成は日々課題。 ・季節の物をうまく取り入れることが出来なかった。もう少し意識していきたい。 ・午睡中などの時間には、それぞれの仕事を優先してしまい時間をとってクラス等の情報共有が難しい時が多く、後日になってしまったり、帰宅後メールで連絡を取り合い情報の共有をすることもしばしばある。時間確保への工夫が必要(3-6)。 ・アレルギーの子もみんなと同じように食事を楽しめるようにすることを忘れずに、かつ安全に気を配って給食おやつを提供ができると良いと思う(3-10)。 ・室内の環境(壁面や活動)は担当を決めて季節を感じられるよう行っているが、自然物の活用については成長段階に合わせ取り入れ方を工夫したい(3-12)。 ・色々なクラスに入るため、各クラスの子どもに合わせた言葉づかいにもっと配慮したいと思う。 ・家庭状況からの影響(本人の内面、精神的な部分)を受けとめつつ、よい方向に進んでいけるよう支援をしていきたい。
	3-5	個々の発達の姿や課題について理解し、見通しを持って教育保育を行っている。	10	21	0	0	
	3-6	その日あった出来事や気になる子どもの様子などを、他の職員と情報共有している。	12	17	1	0	
	3-7	自分の保育について自己課題を持って、評価反省を行い、次の保育に活かしている。	4	26	0	0	
	3-8	行事について計画・実施・評価・改善を行っている。	9	21	0	0	
	3-9	子どもの日々の視診や保護者からの連絡で健康状態を把握し、個々に合わせて保育を行っている。	12	17	1	0	
	3-10	健康診断の結果やアレルギー疾患や慢性疾患のある子どもへの適切な対応をとっている。	15	15	0	0	
	3-11	安全で清潔な環境を整え、楽しい雰囲気の中で遊ぶことができるようにしている。	11	20	0	0	
	3-12	園庭や身の回りの自然物を活用し、季節の変化に応じた環境の構成をしている。	9	18	3	0	
	3-13	創意工夫を惜しまず、喜びや意欲をもって保育をしている。	8	22	0	0	
	3-14	保育者は子どもにとって最も身近な人的環境であるとともに、すべての言動が、子どもにとってモデルになっていることを意識している。	11	19	1	0	
	3-15	子どもの思いや考えに共感しながら、一緒に活動している。また、子どものありのままの姿を受け入れその子の良さをも認めるようにしている。	9	21	0	0	
	3-16	在園時間が異なる多様な子どもがいることを踏まえ、子どもの生活が安定するよう、環境を整備し、生活の連続性を確保し、一日の生活リズムを整えるようにしている。	10	20	0	0	
特別支援	3-17	特別な支援が必要な子どもの実態について把握し、職員間で連携を図り子どもや保護者に対して適切に対応している。	10	20	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な子に対する共通理解と支援がとても大切だと分かったため、来年度もしっかりやって行きたい(3-17)。 ・常勤とパート職員で会議を分けて行うがニュアンスなどで伝わり方が変わることもある。しかし、全員出席で会議を行うことも難しいためノート等使い各自それぞれの解釈で共有をしている(3-18)。
	3-18	ケース会議で支援が必要な子どもへの対応について共通理解をしたり、情報の共有を行ったりしている。	10	19	1	0	

食育	3-19	食育計画に基づき、子どもが安心して食事を楽しめるよう食事を提供している。	11	18	0	1	・クッキングにうまくつなげていくよう計画をしっかりと立てたい。 ・散歩の際に畑に立ち寄り栽培を見るように心がけたがクッキング等、あまりできず、食に触れ学ぶ場が少なかった。学期中間にクッキング等検討し計画をしていくようにしたい。
	3-20	野菜の栽培や収穫、クッキングなどを通し、食育を進めている。	12	15	3	0	・支援センターでも野菜の収穫を取り入れていきたい。
環境・安全	3-21	園内外に危険な箇所がないか、また、子どもが危険な遊び方をしていないか常に気を配っている。	13	17	0	0	・コロナが5類になったが換気や加湿、空気清浄機の使用を継続し、なお一層感染対策をしていきたい(3-24)。
	3-22	事故や怪我が発生した時は、上司に報告をした後、保護者に連絡を取り、必要に応じて受診すると、適切な対応をしている。	13	17	0	0	
	3-23	子ども自身が危険に気付いて行動できるよう、安全についての心構えや約束を日頃から行っている。	14	16	0	0	
	3-24	清掃や整理整頓、換気、採光、室温、湿度に気を配っている。	11	19	0	0	
	3-25	クラスの枠にとらわれず、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応を行っている。	10	15	0	0	
情報について	3-26	保育に関する様々な新しい情報を自ら獲得し、そのことを自分の保育に活かせるようにしている。	7	21	2	0	・もっと視野を広げて様々な情報を獲得し日常の保育に生かせるように努力したい。
	3-27	園に関する情報を園だよりやホームページ等で伝えている。	13	17	0	0	・保育に関する新しい情報を積極的に取り入れ試行錯誤することで子ども理解や保育の質の向上にもつながると思う(3-26)。
	3-28	日誌や出席簿等の書類を適正に記入している。また、職務上知り得た個人情報の守秘義務を遵守している。	16	14	0	0	・よりよい保育ができるよう情報収集をしていきたい(3-26)。 ・提出物を忘れずに出すようにしたい。
	3-29	締切のある仕事や提出物は締切日を守っている。	14	14	2	0	
保護者支援	3-30	子どもの様子や日々の保育内容などの説明や見える化を図り、保護者との相互理解を図るよう努めている。	11	19	0	0	・その場で相談の解決が難しいときは一度預かり、上司に報告するようにした(3-32)
	3-31	保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている。	12	18	0	0	
	3-32	保護者からの相談や苦情、さらに虐待が疑われる様子などがあつた場合、上司に報告し、相談をし、解決に結びつくような取り組みをしている。	13	17	0	0	
地域との連携	3-33	身近な自然や地域、社会と関われるような取り組みをしている。	9	18	3	0	・職員の異動や退職により以前(地域交流など)の取組の経験がある職員が減つた。そのため新しく地域社会との関わりについて意見を出し合い方法を検討する必要がある(3-33)。
	3-34	地域の子育て支援のために、地域の相談の窓口となっている。	10	20	0	0	・散歩を通して地域の人達と交流を深めることができた。
	3-35	小学校教育への円滑な接続に向け、幼保こ小連携の必要性と対応を理解している。	10	18	0	0	・コロナも落ち着いてきたので外部との交流や訪問等、少しずつ復活しても良いのかなと思う。
研修	3-36	研修会に参加したり、自ら専門書を読んだりし、自己研鑽に努めている。	6	22	2	0	・研究大会の会議に参加し学んだことが多かつた。自身の保育を見直すことができたが課題も多くある。今後も研修に参加し色々学んで行きたい。
	3-37	学んだことを日常の保育に活かし、子どもの育ちに反映させている。	8	21	0	0	

【食育関連】対象者5名

項目	番号	内 容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
食事に 関する こと	4-1	園における給食の目的を理解している。	3	2	0	0	・コロナもあってしばらく研修会に行けてないので、食中毒(アレルギーも含む)などの知識(忘れてる事も含め)再確認の意味で研修会に参加した方がよいのではと思う。 ・昨年、研修会に参加した際、他園の取組、アレルギー事例、対応などの情報を得ることができた。良い刺激になると思うので、また機会があれば参加したい(4-7)。 ・アレルギーに関する研修に行けていないという意味でDとなる。アレルギーの他にも給食調理従事者のための研修や講習会、食中毒や衛生管理の知識向上も求められているのではないかと思う。この数年そういった機会がありません。グループ内での情報交換、収集は出来ていた。
	4-2	月齢に応じた食事の量や形態(かたさや大きさ等)を理解し、成長を促すことができる。	3	2	0	0	
	4-3	食事習慣や家庭環境などを総合的、多面的に理解している。	0	5	0	0	
	4-4	保育者と子どもの状態を伝えあい、より良い食事をとることができるよう連携を図っている。	1	4	0	0	
	4-5	食品に含まれている栄養成分や体の中の働きを子どもに知らせ、食材への理解を深めることが出来るよう工夫している。	2	3	0	0	
	4-6	旬の食材を知らせ、年中行事と関連付けて食文化に興味を持たせている。	3	2	0	0	
	4-7	アレルギーに関する園内外の研修への参加や情報収集を行い、知識を高めている。	2	2	0	1	
	4-8	全職員が把握できるよう、食物アレルギーを持つ子どもの情報を共有している。	4	1	0	0	
	4-9	アレルギー除去について保護者と園とで連携を密にし、その対応に相違がないようにしている。	4	1	0	0	